学　校　だ　よ　り

平成27年10月1日

10月号

NO．３１９

横浜市立茅ケ崎小学校
校長　　岩本　悦子

「実　り　の　秋」

秋清の候を迎え、空にかかる月がとりわけ清く美しく感じられる頃となりました。八百屋の店先で、和栗を見かけました。甘くてほくほくとした和栗のおいしさは、格別です。皮つきの生栗は、この時期にしか手に入りません。四季がはっきりしている日本の素晴らしさを感じます。そして、秋と言えばお月見です。９月２４日の給食では、白玉だんごを満月に見立てた「月見汁」が出ました。大好評でした。

日本では、古来から旧暦９月を長月（ながつき）と呼び、現在では新暦９月の別名としても用いられています。 旧暦の８月１５日には、お月見の団子や里芋、秋の七草【桔梗･女郎花（オミナエシ）・撫子・藤袴・葛・萩・薄(ススキ)】を飾って満月を愛でる行事が行われていました。なんと風流な行事でしょう。旧暦で秋は、７月８月９月です。その真ん中にあたる中秋の満月を「名月」としました。中秋の名月を愛でるこの行事は、中国から伝わったものと言われています。日本には平安時代に伝わり、貴族たちが「観月の宴」を催したそうです。日本では、もともと中秋の頃に収穫物を供えて感謝する祭がありました。この年中行事が「観月の宴」と一緒になり、今のようなお月見になりました。

十五夜の祭には地域ごとに違いがあり、沖縄では綱引きを行うという資料を読んだことがあります。お月見の日に綱引きとはびっくりです。また、十五夜はちょうどそのころに収穫される里芋を供えることから「芋名月」と呼ばれています。里芋(子芋）を皮をつけたまま蒸した衣被（きぬかつぎ）は私の大好物です。ちょっとつまむと、つるりと皮がむけ少々の塩をつけて食べるとおいしいのです。

今年の十五夜は９月２７日(日）でした。十五夜から一ヶ月後の旧暦９月１３日【今年は１０月２５日(日)】の夜を十三夜「栗名月」としています。満月ではなく少し欠けた月を観賞する十三夜は、日本独特の文化のようです。この頃は空気が澄んで、月を愛でるにはちょうどよい季節です。今年は「我家流」でお供えものをしつらえ、部屋の灯りとテレビを消して空に輝く少し欠けた月を愛でる十三夜を楽しんでみてはいかがでしょうか？

「実りの秋」には収穫を祝い、感謝する秋祭りが現在もたくさん残っています。皆さんもお子さんとご一緒に身の回りから秋を見つけ、ゆったりとした気持ちで日本の秋を味わってみませんか？